

ひかり文庫



あっという間に季節は秋ですね。
子どもたちの大好きなどんぐりや綺麗な色のはっぱがたくさん落ちてきましたね。
園ではいよいよ、年中さんの本の貸し出しが始まりました。ドキドキしながらも本を借りるに挨拶に来るお友達を見るのは、図書委員何よりの特権かもしれません。
お子様がドキドキ、ワクワクしながら借りてきた絵本、一緒におたのしみください！
今回は、3人の先生と図書委員のお母さん方のおすすめ絵本のご紹介です。
子どもだけでなく、大人も楽しめそうな絵本が盛りだくさんです。

貸し出しランキング（単行本）

順位	題名	総数
1	うみの100かいだてのいえ	16
2	ノラねこぐんだん パンこうじょう	9
3	ちか100かいだてのいえ	8
4	ミッケ！2 びっくりハウス	7
4	ミッケ！3 クリスマス	7
4	ノラねこぐんだん おすしやさん	7
4	ノラねこぐんだん きしゃぼっぼ	7
8	ある朝、ジジジャンボは おったまげた！	6
8	おしりたんてい～むらさきふじんの暗号事件～	6
8	おしりたんてい～ふたりいる～	6

貸し出しランキング（シリーズ）

順位	題名	総数
1	おしりたんてい	58
2	ミッケ！	33
3	昆虫シリーズ	32
4	ノラねこぐんだん	26
5	100かいだてのいえ	25
6	バーバパパ	21
7	かいけつゾロリ	21



シリーズではありませんが、
昆虫(カブトムシ、女王アリ、キリギリスなど)を
累計すると堂々の3位！
さすが、のびのびっ子！
自然が身近な中で育っていますね！

新刊のお知らせ



なんと！図書委員の方から
お勧めで挙がっていた本が早速
入荷されています！
そのほか、人気の昆虫シリーズも
入ってきました！
お友達が見やすいところにおいて
おきますね。



今年度より、ひかり文庫のカバンが新
しくなりました。
これは、昨年度の卒園生の記念品です。
(感謝)
返却日が雨の日などは、上から
ビニール袋をかけるなどして、本と共に大
切に使っていきましょう。
ご協力をよろしくお願ひいたします。



『しろくまのパンツ』
作：ツペラツペラ(tupera tupera)
出版社：ブロンズ新社

「あれ？ぼくのパンツがない！」と、しろくまくん。近くにいたねずみくんが「じゃあ一緒に探しに行こう」と、2匹でしろくまくんのパンツを探す旅に出かけます。次々に出てくるユニークな動物たちが履いている、大小、柄が様々なパンツを見ながら「これは僕のパンツかな？」「ちがうな～」と掛け合いをしながら探していき、最後は...。しろくまくんのパンツが見つかるオチに思わずずっと笑ってしまいます。子どもたちと読んで「もう一回読んで！」と、動物が登場する前に答えをしまうくらい何度も何度も楽しむ事が出来、私も大好きな絵本です。最後のオチがどうなるのか...ぜひ、お子さんと一緒に「クスツ」としながら楽しい時間をお過ごしください。

めろんグループ 三樹 春佳先生



『くずかごおばけ』
作：せなけいこ・おばけえほん
出版社：童心社

この絵本はもう50年近く経つ、昔ながらの絵本です。手でちぎったり、ハサミで切った紙の貼り絵で作られていて、おばけの怖さもありませんが、どこかあたたかさもあります。そのせなけいこシリーズの中でも私がオススメなのが「くずかごおばけ」です。嫌いな物、いらぬ物をなんでもくずかごに捨ててしまう女の子。その捨てたものがおばけとなって「捨てたのは誰だ～」と女の子を追いかけてきます。物を大事にすることをおばけの怖さもありませんが楽しく教えてくれる絵本です。簡単なお話だからこそ読みやすく、子ども達にも響くと思います。ぜひ他のシリーズもありますので色んなおばけと出会ってみてください！

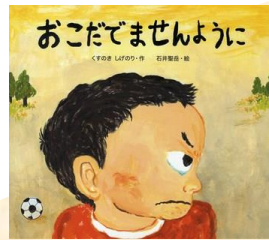
はと組 森下 郁士先生



『あさえとちいさいもうと』
作：筒井頼子 絵：林明子/福音館書店

私の長女と次女がこの絵本の中の姉妹と同じくらいの年齢の頃、本屋で林さんの描く愛らしい子どもの絵に目が留まり購入しました。子ども達に読み聞かせをし、やがて自分たちで読むようになってボロボロの絵本になりましたが、今でも大切に持っています。お母さんの留守中に妹と遊んでいたあさえは、妹を楽しませたくて必死でしたが、ふと見ると妹がいなくなっていました。妹に何かあったのではと怖くなる気持ちを抑えて必死に近所を探しますが、一方の妹はというと...最終ページに文章はありませんが、あさえの気持ちの全てがそこに描かれているように感じました。優しく頼もしいお姉ちゃんと、無邪気な小さな妹。当時の我が子たちと重なり、今でも読むたびにこの物語の中の姉妹を抱きしめたいくなります。

コンサルジュ 留置 里香先生



『おこだでませんように』
くすのき しげのり 作
出版社 小学館

大人に怒られてばかりの男の子の心の中を描いた絵本です。子どもの行動にどんな思いがあるのか、つい反射的に怒ってしまう前に一息おいて考えたいと思わせる絵本です

年中 図書委員 おすすめの本



『みえるとか みえなとか』
ヨシタケ シンスケ 作
出版社 アリス館

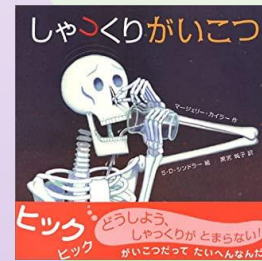
主人公のぼくが宇宙の色々な星を旅して自分とは身体の特徴が異なる人たちと出会います。自分にとっての当たり前が、実は当たり前ではないことを知り、相手のことを理解しよう、想像してみようという思いやりが育つ本だと思います



『おとうふやさん』
飯野 まき 作
出版社 福音館書店

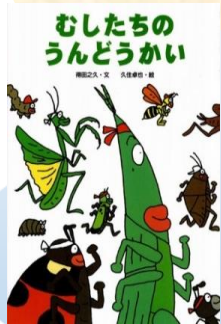
のぼ園では年中さんの時に「おみそ」を作りますが、同じ大豆から作られる「お豆腐」についてわかりやすく書かれています。お水に浸かっている大豆に興味を持ったみっちゃんが、翌朝早起きをしておとうふやさんに見学させてもらう話で、大豆の固さ、姿が変化していく様子はにおいまで伝わってきそうです。

年長 図書委員 おすすめの本



『しゃっくりがいつか』
マージェリー・カイラー 作
出版社 セーラー出版

息子が大好きな絵本の一つです。主人公のしゃっくりが、キモくてかわいくて、かなりハマります。ひかり文庫にもあるかな？ イラストも可愛くて、読みやすい本です



『むしたちのうんどうかい』
得田 之久 作
出版社 童心社

昆虫大好きな息子が興味を持った本です。はっきりとした色彩と虫たちの特徴をよく捉えた本だと思いました。「むしたちのサーカス/えんそく/かくれんぼ/おまつり」とシリーズがあり、子ども達に身近な題名なのでごく読んでみたい本のシリーズです



『おふろだいすき』
松岡 享子 作
出版社 福音館書店

かわいらしく優しい絵でほんわかします。まこちゃんがあひるのブッカいつものようにお風呂に入っていると、ブッカがお風呂の底にカメを見つけ、ペンギン、オットセイなど次々動物が現れます。次はどんな動物が現れるかわくわくしながら読めますよ



『とんことり』
筒井 頼子作 林 明子 絵
出版社 福音館書店

園で購入する園の見本で置かれていた本なので、目にした方も多いかもれません。一見、不思議なタイトルは主人公かなえへの「贈り物」が郵便受けに届く音。家庭の都合で見知らぬ土地へ引っ越したかなえに最初の友達が出来るまでの物語が淡々とした言葉と優しいタッチの絵で綴られています。ラストでようやく笑顔を見せるかなえにほっこり。ですが、個人的にはかなえと同じように親の都合での転居、転園を経験しているので、一人ぼっちですとつまらなそうにしているかなえにもシンパシーを感じてしまいました



『ちいさいおうち』
バージニア・リー・パートン 作
出版社 岩波書店

ちいさいおうちの周りの景色が次々に変わっていく様子がとても丁寧な絵で描かれています。季節の移り変わり、田舎の美しい風景と優しい文章が大好きで子どもの頃からずっと大切にしている一冊です



『SOME DAY
いつかはきっと...』
シャーロット・ゾロトフ 作
出版社 ほるぷ出版

女の子の小さな夢がたくさんつまった本です。子どもらしい発想に思わずクスッと笑ってしまいます。絵のタッチもソフトで優しく、とてもかわいい絵本です。



『おとがあふれてオムライス』
夏目 義一 作
出版社 福音館書店

オムライスをお父さんと女の子が作るお話。ニンジンを切ると「たくん たくん」「しゃぐつしゃぐつ」「すずすずおすおすお」たまごを混ぜると「しゃらしゃらしゃら」からだんだん「しょかしよかしよかしよか」お料理しているような音がします。ごはんを作るお手伝いが好きな娘もお気に入りの本です。



『こねてのぼして』
ヨシタケ シンスケ 作
出版社 ブロンズ新社

ヨシタケ シンスケさんの絵本は本屋さんでよく見かける方も多いと思います。どの絵本を読んでもとっても面白いです。子どももお気に入りの本です。みなさんも機会があれば是非、読んでみてください。



『だいすきぎゅっぎゅっ』
クイリス・ゲイシャイトー/ミム・グリーン文
デイヴィッド・ウォーカー 絵 福本 友美子 訳
出版社 岩崎書店

「おはよう！」から「おやすみ」までかわいいウサギの親子の一日のお話です。時間ごとにお話が進むので数字の勉強にもなります。それに、お話の中で何度か出てくる「大好きぎゅっぎゅっ！」のところでウサギ親子と一緒に子どもをぎゅっつとすれば子どもも喜びます。文字数も少なめなので小さなお子様から読めると思います。とってもかわいくて、親子でコミュニケーションとれる本だと思います

『いっさいはん』
minishi 作
出版社 岩崎書店

一歳半あるあるが描かれています。今、そのくらいの子育てをしているお父さん、お母さん、あるある過ぎて笑えます。この頃の子育て毎日大変だけど、一コマにすると笑えます。みんな同じなんだ、と思うと頑張れます(笑)お兄ちゃん、お姉ちゃんも楽しめます。一歳半時代を過ぎたお父さん、お母さんも懐かしい時代を思い出して笑えます。ぜひ、よんでみてください！



『よるのびょういん』
谷川 俊太郎 作
長野 重一 写真
出版社 福音館書店

子どもの頃、あまりの臨場感にドキドキしながら何度も読んだ本です。夜中に「ゆたか」君が盲腸になり救急車で運ばれ手術を受けます。全てが白黒の写真でドキュメンタリータッチで夜の病院で働く人々の活躍が描かれています。夜中の病院のシーンとした音まで聞こえてきそうです。



『オニのサラリーマン』
富安 陽子 文 大島 妙子 絵
出版社 福音館書店

地獄で働くサラリーマン鬼のお話。どの世界でもお父さんは大変だなあとしみじみしながら爆笑してしまいます。子どもより大人のほうが楽しめるかも！

